

# 棚田に吹く風

11 2012  
月号  
Vol.85

隔月刊



## 2 特集 棚田と旧暦

5 フォトエッセイ  
棚田の四季

6 棚田・里山からのたより  
営農を支えて共に守る里山の風景  
神奈川県葉山町

8 棚ガール  
谷崎勝祥さん追悼

9 棚田博士は今日も行く  
紀州長峰山脈北斜面の棚田  
和歌山県海南市海老谷

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの  
かつどうノート  
スタッフのつぶやき

15 Project Report





特集

# 棚田と旧暦

誰もが一度は疑問に思うことがあります。

「なぜ、寒々しいお正月に初春というのか?」「桃の節供には、なぜ桃が咲いていないのか?」「七夕は、なぜいつも雨なのか?」これは年配の方ならご存じのように、私たちが普段使っている新暦カレンダーと明治の初めまで日本人が永らく使ってきた旧暦の伝統的感覚が混在しているからです。太陽の周期を数字で並べた合理的な新暦に対して、月の満ち欠けを基本に、太陽の季節を二十四節気として組み込んだ複雑難解な旧暦ですが、今、若者や女性を中心に再び注目されています。

それは、大地の引力や生理現象にまで影響を与える月のリズムへの関心や、季節感を大切にしたいライフスタイルを志向する人たちの必然的な再発見といえるかもしれません。

かたや棚田も合理的な大規模農法に対しては、旧暦と同じ立場です。大地の力と季節感が凝縮された棚田には、旧暦のリズム感がびつたりです。

棚田と旧暦、ずっと日本人が大切にしてきたものを思い出してみませんか!

## 旧暦の基礎知識

今から百四十年前の明治五年（一八七二）十一月九日、時の政府は突如旧暦を廃止して、太陽暦を採用すると発表した。旧暦とは太陰太陽暦のことである。

太陰太陽暦とはその名の通り、太陰つまり天空の月の満ち欠けによって日を数え、その一周（朔望月という）をもつて一か月とし、その十二か月を一年とする暦である。一朔望月の長さは約二十九日半なので、その十二倍の一年は約三五四日となる。

いっぽう、地球が太陽の周りを一回転する長さ（一太陽年）は三六五日と約四分の一日なので、旧暦の一年は実際の一年より約十一日短い。したがって、お正月が毎年十一日ずつ早くやってくることになり、十数年後には真夏に新年を迎えることになる。

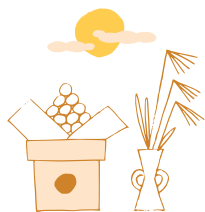
そこで、両者の差が一カ月に達したとき、二十九日か

三十日の閏月を挿入して、季節とのずれがそれ以上にならないようにしている。このため、桃の花が散つてからの雛祭りになったり、少し肌寒くなつてのお月見になったりする。

このように、旧暦では日付だけでは正確な季節を知ることが難しいため、一太陽年を約十五日ずつに分けた二十四節気を併用する。二十四節気やその応用である八十八夜・二百十日・彼岸・土用などは太陽暦に基づくものだから季節とずれることはない。農家はこれを目安にしていた。

日本では千数百年前に中国から伝えられた旧暦を使っている間にすっかり身に付いてしまったから、特別な愛着を持たれている。

暦の会・会長  
岡田 芳朗



## 棚田の農事暦

棚田に限らず日本の農業に欠かせないカレンダーは「季節」です。おそらく暦がない頃は、季節の目安になる植物の開花や小動物の動き、つまり周辺の山川草木の変化がカレンダーそのものだったでしょう。

こぶしの花は「種まき桜」「田打ち桜」とも呼ばれ、田起こしの季節の目安になり、山の麓では、山肌の残雪の形が代かきや筋蒔きのタイミングを教えてくれる「雪形」として伝えられています。

それらの季節の節目は、江戸時代に広がった旧暦の二十四節気との親和性が高く、棚田の農事暦は、旧暦と経験的な言い伝えがそれぞれの地域に根付いていったと考えられます。

旧暦の二十四節気は  
農作業のめやすでした

立春 りっしゅん 暖かい地方では、梅が咲き始める。前日は節分。  
雨水 うすい 雪が解ける。草や木の芽が生え、ウグイスの声が聞こえてくる。  
啓蟄 けいちつ 冬ごもりしていた虫が地上に出てくる。フキノトウがほころぶ。  
春分 しゅんぶん 花冷え。昼と夜の長さがほぼ同じ。春の彼岸。  
清明 せいめい 関東地方では桜が満開。  
穀雨 こくう 田畑の準備が整う。恵みの雨が降り、穀物の成長を助ける。  
立夏 りっか 夏の気配を感じはじめる。田んぼではカエルが鳴きはじめる。  
小満 しょうまん 草や木が成長する。早い地方では梅雨入り。  
芒種 ぼうしゅ 稲などの苗を植える、田植えの目安。農家は多忙になる。衣替えの季節。  
夏至 げし 一年のうちで一番昼が長く、夜が短い日。  
小暑 しょうしょ もうすぐ梅雨明け。集中豪雨に注意。  
大暑 たいしょ 本格的な夏の幕開け。夏休み。  
立秋 りっしゅ 猛暑。この日を境に徐々に涼しくなるとされる。残暑見舞い。  
処暑 しょしょ 暑さも終わる時期。朝晩は過ごしやすいになる。台風シーズン到来。  
白露 はくろ 草の葉に白い露がつく。  
秋分 しゅうぶん 昼の長さや夜の長さがだいたい同じになる日。秋の彼岸。  
寒露 かんろ 稲刈りもそろそろ終盤。草の葉に冷たい露が結ぶ。  
霜降 そうこう 寒い地方では、早朝、霜が降りをはじめ。紅葉シーズン。  
立冬 りっとう 初雪の便りが聞こえてくる。  
小雪 しょうせつ 冷え込みが厳しくなる。  
大雪 たいせつ 霜柱が立ち、北の地方では根雪が積もりはじめる。  
冬至 とうじ 一年のうちで一番夜が長く、昼が短い日。カボチャを食べ、ユズ湯で体を温める。  
小寒 しょうかん 寒の入り。池の水の厚さが増す。  
大寒 だいかん 寒さが一番厳しい。これから少しずつ春に向かう。

## 「農事暦」実際はどんなもの？

「桜が咲いたらトウモロコシの種を蒔く」ここていうトウモロコシは飼料用。日本の酪農の発祥地・南房総あたりで。桜の花は寒暖によって咲く時期が1カ月もずれたりするので、開花を目印にしたのでしょう。

「郭公が鳴いたら豆を蒔け」郭公は5月ごろ日本に渡ってくる夏鳥。5月になれば遅霜の心配もほぼなくなり。あまり早く蒔くと、地温も低く栽培期間も長くなり、いい豆にならないそうです。

「自分が子供の頃、年寄りの女衆が旧暦の14日とか15日の夜に、念仏講のような集まりを開いていた。そのときのきまつた挨拶として『この節この頃』と言っていたなあ。『この節この頃、（お天気が○○）』とか。『この節この頃、（作物の出来が○○）』とか。どういう意味なの？と訊いたら、『よく気がついたね。節というのは二十四節気のことなんだよ』と教えてくれた。今はもう、そんな集まりもないし、挨拶も聞かれなくなってしまったけどね」

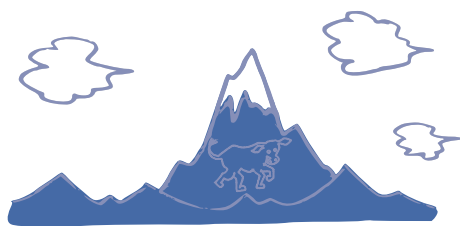
鴨川の川代集落の篤農家・安西さんの話

信州・川中島平では、「半夏過ぎまで田植えをするな」「すじ蒔き小満、田植え半夏、出穂三十日」と言われています。川中島平の稲作では、（わき水などではなく）千曲川の水を使っているのですが、土が砂地質なので田んぼに水がなかなか溜まらず、水量がたぐさん必要だとのこと。そのため、他の地域より後に田植えをすることになったようです。

# 雪形と農作業

雪国の山里では、春になって山の残雪が形を作るようになる、それをいろいろなものに見立てて農作業の目安にしてきました。寒くて雪が多い年と、雪が少ない暖冬の年では、雪形が現れる時期がずれるため、合理的な農事暦だったことでしょう。

雪が融けて露出した山肌の形を見立てる場合はネガ型、残った雪の形を見立てる場合はポジ型と呼ばれます。新潟県や長野県にたくさんありますが、愛媛県や兵庫県にも伝わっているそうです。

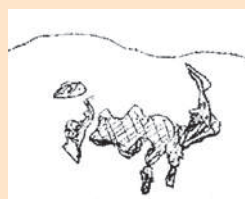


「雪形」実際はどんなもの？

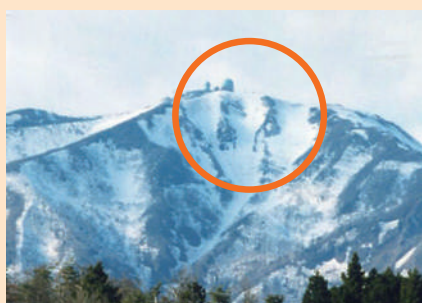
## 白馬岳の「代掻き馬」



長野県白馬村の白馬岳（2933m）に、5月中旬～下旬頃に出現する馬形の雪形（ネガ型）。この出現を見て田の代掻きを始める。



## 金北山の「種蒔き猿」



新潟県佐渡市の金北山（1172m）に4月中旬に出現する猿形の雪形（ネガ型）。右が雄猿、左が雌猿。この出現を見て、苗代に種蒔き（筋蒔き）を始める。



旧暦に興味を感じたら読んでみよう。「これ、聞いたことがある」「そついうことだったのね!」そんな発見がいっぱいです。

## 暮らしに生かす旧暦ノート



鈴木充広著  
河出書房新社  
2005年  
¥1575 (税込)

著者は海上保安庁に勤める専門官。暦や天文計算などが趣味で、いろいろな質問に答えているうちに、それをまとめた「こよみのページ」というWebサイトを作ってしまった。そこから生まれた本です。新暦と旧暦の関係、旧暦にまつわる誤解、お月様の満ち欠けと呼び名、などのほか、暦の雑学・こぼれ話も満載。

## 旧暦びより二十四の季節あそび



京都放送編  
2007年  
¥1260 (税込)

立春・夏至・秋分・冬至などの言葉。これらは「二十四節気」の中の一つです。旧暦にはほかに、雑節、五節句、七十二候といったものもあります。暮らしの中に季節があった時代の知恵でしょうか。千年の都・京都の放送局が編集した、古きよき文化を感じさせてくれる二冊です。

棚田ネットワークが平成25年版『旧暦 棚田こよみ』を作りました! 詳しくは裏表紙の案内を見てください!



# 棚田の四季

写真・文 梅野 秀和

## 収穫の季節

朝晩めっきり肌寒くなる頃になると、田んぼは黄金色の景色へと変わります。黄色く色付いた稲穂が、頭を下げている様子はあたかも天の恵みに感謝しているかのようです。そして、厳しい労働の苦勞が報われ、農家の方たちの笑顔が見えてきます。

刈り取りの10日前くらいに川の堰を開き、田んぼの水を落として稲刈りに備えます。子供の頃は、魚を獲るためこの時期が待ち遠しく、興奮して夜も眠れなかったこと思い出されます。

刈り取った後は、要所要所に支柱を立て、それに長い竿を渡して刈り取った稲を束にして吊るし

ます。棚田は、掛け干しされた稲束がところ狭しと並び、みごとな景観を見せます。

棚田では掛け干ししたまま一週間から二週間、自然の風でゆっくりと乾燥させます。すると、平地の立ったまま機械で刈取られたお米より一段とおいしいお米が出来上がります。



上：茅葺民家実りの秋  
(大分県九重町)

下：通潤橋の掛け干し  
(熊本県山都町)



## Profile



梅野 秀和

うめの ひてかず

1947年、佐賀県生まれ。写真は独学、主に写真雑誌やコンテストで学ぶ。1990年頃から風景写真を本格的に撮り始める。1994年、月刊誌『日本カメラ』で年度賞受賞。1998、2004、2007、2008、2009、2011年視点入選。2005、2006年JPS展入選。2002、2003、2011年二科展入選。

●写真集 「九州花百景」「九州花百景Ⅱ」「棚田～田んぼの四季～」(ほおずき書籍)、「九州の一本桜」(梓書院)、「だんだん田んぼの詩」(権歌書房)ほか。



棚田・里山  
からの  
たより



## 営農を支えて共に守る里山の風景

神奈川県葉山町



上：棚田全景／下左：苗箱に種籾を蒔く／下中：畔には大豆。これがおいしい！／下右：田の草取り

### 知る人ぞ知る首都圏の棚田

葉山の棚田は、かつては「千枚田」といわれるほどの規模でした。今残っているのは64枚、2・3畝。6軒の農家が耕作しています。それをお手伝いしているのが「葉山山里会」です。団体としてのスタートは2004年ですが、それ以前にも農家の人たちのお付き合いはありました。都会の人は遊び半分だと思われがちで、農家の信用を得るには時間がかかります。農家自身が、自分たちが住んでいる場所の価値を再認識することも必要でした。

この田んぼの水は湧き水です。葉山は湧き水が豊富で、このあたりの地下深くには湖があるともいわれます。湘南国際村が出来たときに、地元振興策として水路を整備してもらいました。普段は山の中腹にあるタンクに湧き水を溜めておき、必要になったらパイプを

繋いでバルブを開け、不要になったら外して閉めます。それだけなので、水管理はとても楽です。

下の方には比較的大きな田もありますが、上の方は小さい田が多いです。傾斜があるので、刈った稲を運び上げるのは高齢の農家には大変です。山里会が手伝うようになって、何日もかかっていた稲刈りが2日で終わるようになり、とても喜ばれています。

### 黙々と手伝う

山里会は援農ボランティア団体。あくまでも、この地域の農家の営農をお手伝いして、里山の景観や文化を守っていくのが目的です。田畑で出来た米や野菜などは基本的に農家の自家用です。研修用の畑もありますが、市民農園のように自分たちが作りたい作物を作るようなことはしていません。

県が実施したエコミュージアム事業をきっかけに、団体として発

足しました。最初に手を挙げたのは60人ほど。でも、小さな子供さんと一緒に遊んだり、遊び心で参加したり。趣旨をきちんと説明したら、半分ぐらいに減りました。

最初は里山の紹介をしたりしていましたが、段々と活動を広げて、田んぼの手伝いのほか、大根など重い野菜の収穫も手伝うようになりました。竹林の整備も行っています。

農業体験の受け入れとか、都市の人たちとの交流イベントなどは実施していません。行政はやりたみたいで、「皆さんに理解してもらうためには…」などと言っています。

年末に一度だけ、慰労を兼ねて餅つきをします。搗きたてを食べたり、藁でしめ飾りを作ったり。正月の餅を持ち帰ることもできます。参加するのは農家さんと会員だけで、部外者はお断りしています。

行政から財政的な補助はもらっていません。作業するには道具が必要なのですが、幸い私たちの活動に賛同してくれる企業さんがあって、助成をいただけたので、

それが必要なものを購入しました。

会員は、年齢30代から80代まで。葉山町民だけでなく逗子や横須賀などからも参加しています。都市住民ばかりで、農業の経験者はいませんが、1〜2年で慣れて活動できるようになります。作業は基本的に朝8時半に集合し4時で終了。無理せず長続きするようにと決めました。いま15人ほどなので、少し増やしたいと思っています。

## 今も続く結の文化

この棚田の農家は、全部の田んぼ作業をお互いに手伝い合っていています。お金を出し合って、機械の燃料代もそこから出すし、

食事と一緒に食べます。今も結が生きているということですね。私たちもその中に入れてもらっています。

以前、「あなたの好きな葉山の風景」という町民アンケートがあったんです。1位が長者ヶ崎、2位が森戸神社とそこから見える富士山、3位が棚田でした。そんな結果を見ると、やっぱり守っていかなくちゃ、と思いますね。

葉山山里会 会長 角田輝男

※この記事は、山里会の角田会長へのインタビューを元に構成しました。

## ■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR横須賀線逗子駅から京浜急行バス「衣笠駅行」、上山口小学校または新沢下車、徒歩5分

【自動車】 横浜横須賀道路横須賀ICを降り、県道27号を西へ。インターから約5分

## ■ お問い合わせ

葉山山里会 会長・角田輝男  
TEL&FAX：046-875-5078



左：農家の庭先で脱穀作業／中：稲刈り終了／右：稲が積み上がっていく



# 棚 ガール Tana Girl

Vol.5

棚田の虜になった乙女、通称「棚ガール」  
そんな女性を紹介するコーナーです!!

大阪府八尾市

牧野 晴子 (33歳)



棚田との出会いは、私が制作している絵画のモデルをしてくださいました棚田むすびの会会長の扇田さんとの出会いがきっかけです。彼女から棚田の現状やそれに対する熱い思いなどを聞いているうち、自然が大好きな私はすぐに一緒に活動させて欲しい、と棚田むすびの会に入り、活動を始めました。

初めて棚田に連れて行ってもらったときは、景色があまりにも美しく、涙が自然とあふれ出そうになったくらいです。こういった自然が創るアートは、人工的に装飾したイルミネーションなどよりも遥かに心を感動させてくれるものだな、と思いました。

田植えの時期には、まだひんやりと冷たい泥の中に素足を突っ込み、仲間たちと笑顔の中、ひと苗ひと苗を丁寧に植えさせていただきました。また、稲刈りでは、悪天候にもかかわらず、皆で力を合わせて1日ですべての稲を刈ることができました。その時の達成感は何とも心地の良いものでした。

私たち日本人が遠い昔から主食にしてきたものを、大切に育てていく過程を体験し、棚田は人間の生命に近い場所のように感じました。

慌しく過ぎる都会での生活の中で、週末の棚田活動で自然に触れることは、私にとって大きな癒しとなっています。

将来の夢は、美しい棚田を自分のアートで表現すること。そして、もう一つは、棚田でお米を育てること、田舎で自給自足の生活をする事です。

## 谷崎勝祥さん追悼



8月20日、徳島・上勝町の谷崎勝祥さんが亡くなられました。  
一緒に深夜のラジオに出演したこともありました。2009年の春から一年間、会報に「檜原の稲作日記」を連載してくれました。「檜原は耕作道や山神さんが二百年前の絵図面と変わっていないんだよ」と、誇ら

上げてした。

高知県橋原町で開かれた最初の棚田サミットに参加してから、ずっと「上勝でサミットをやりたい」と願っていた谷崎さん。開催を見届けて逝ってしまいました。ちよつと丸い優しい顔と穏やかな語り口を、忘れません。

(高野光世)



2009年に寄稿いただいていた会報と、連載記事。地域の文化と活動を毎回写真と楽しい文章で伝えてくれました。



# 棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の  
全国棚田行脚

## 紀州長峰山脈北斜面の棚田

和歌山県海南市海老谷



### 棚田と果樹園の階段耕作

#### 「梯田」の風景

海南市は、県の北西部にあり、海岸部は紀北臨海工業地帯に属し、大工場の煙突が林立しているが、内陸部はミカン・カキ・モモ・ビワなど各種の果樹栽培が盛んな農業地帯である。海老谷は市の南東部、内陸の標高500m前後の山が連なる長峰山脈の北斜面中腹に位置し、平核無力キやミカンの栽培が盛んな集落として知られている。

海老谷は、2003年から棚田オーナー制を実施、調査地の一つと考えていたが、訪ねる機会がなかった。その機会を作ってくれたのが2011年徳島県上勝町の全国棚田サミットで出会った和歌山県有田振興局の職員林裕光さん、案内をするので訪ねてきて下さいと誘われた。

2012年5月下旬、林さんと同僚の和歌山県農業農村整備課の岡村成実さん、海草振興局の鶴尾由希さんの3人が同行、林さんが運転する車で海老谷を訪ねた。車中、2013年に有田川町で開かれる予定の棚田サミットが話題になった。県の担当者である岡村さんは、和歌山県では水田の棚田とともに、ミカンを初めとする果樹園の段々畑も取り上げ、階段耕作の問題を扱いたいという。そこで、私が中国では水田、畑を問わず階段耕作地のことを梯田というので「梯田サミット」にしたらどうかと云うと、いいヒントを貰ったと

いつて喜び、皆で盛り上がった。

海老谷へのルートは、海南駅の南を東西に走る国道370号を東進、阪井の交差点を右折して県道169号に入る。木津の交差点を右折、山に向かって国道424号を南下する。周辺に溜池が多いのは用水に利用できる大きな河川がないためであろう。次ヶ谷の集落を過ぎ、珍しいかな文字の集落ひや水にある酒屋、小島商店横から狭い一般道に入る。この辺りの標高が100m、海老谷の最高所が250mなので急坂を上り、集落に到着する。

公共の交通機関は、海老谷まで

なかしま みねひろ  
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田 (千枚田) 連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地理科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



1：小型のトラクターで代掻き／2：カキの摘蕾。  
大きな実にするため蕾の80%を摘み取る、手間の  
かかる作業／3：村で見かけたほほえましい看板

1日2便のコミュニティバスがあるが、ほとんど利用できない。かわりに、海南駅前から生石高原登山口を結ぶ1時間に2便運行している大十オレンジバスを利用、阪井で下車し、あとは歩かなければならない。

## 水を湛え点化する棚田 最盛期の景観を想像する

集落は、家屋が標高1500〜2500㍎の間に点在し、中心も明確でない。それと同様に棚田も点々とあるので、案内がなければ簡単に見てまわることはできない。まず、集落の入り口、急坂を上り始める辺りに一塊の棚田があり、田植えに備え水が湛えられていた。傾斜6分の1の斜面に8枚、等高線状

の形状をしている。最上段の棚田は1枚が20㍎もあり広いが、その他は3〜4㍎、石積みの高さは1〜2㍎ほど。畦は定規を当てたように仕上げられており、畦塗機が使用されたことを窺わせる。さらに上ると、道の下に広さが1〜3㍎の棚田が5枚見えるが、いずれも放棄されており、石積みも判らないほどである。

3〜4戸の家屋があつまり、集落の中心と思われる部分の東側には5段の石積みみの棚田がある。最上段は育苗に用いられ、2段目の最もひろい8㍎ほどの棚田ではトラクターによる代掻きが行われていた。2段目以外は、1枚が2〜4㍎の広さで、2〜4㍎の高さの石積みが築かれている。支脈の尾根を

越えた小さな谷の部分にオーナー制に利用されている棚田があった。傾斜4分の1の斜面に等高線状の棚田が7枚、1枚が2㍎、石積みの高さは2・5㍎ほど。このうち、道路に近い下の4枚がオーナー田として利用されているそうだ。

景観が優れている棚田は標高2000〜2500㍎、集落の最も高い部分にある。隣の集落東畑へ向かう道から眺めるのがよい。傾斜5分の1の西向き斜面に3列、それぞれ30段近くの棚田が並んでいる。1枚が2〜4㍎、石積みの高さ2〜3㍎、形状は等高線状である。各列は上・中・下段の3つの部分にわかれ、各段の上半部分は転作され平核無力キの畑、中段部分のみが耕作されており、下段部分は放棄されている。米の生産調整強化により転作・放棄されたものと考えられるが、すべてが水田として利用されていれば100枚以上の見事な棚田景観が見られたであろうと考えられる。

## 米・ミカン・カキの栽培が 経営の三本柱

農繁期の作業を邪魔したくないので、夜4人で集会所を訪ね、峯本さんに会った。峯本さんは、認定農業者、中山間地域等直接支払の海老谷地区代表、和海地方農業士会会長、JANAがみね力キ部会長などを務める篤農家、59歳、奥さん55歳、7年前に就農した長男31歳の3人が農業専従者であり、棚田地域では珍しい主業・専業農家である。米・ミカン・カキの栽培が経営の三本柱になっている。家族は他に父97歳、母93歳の両親が健在であるが、高齢のため留守番をするぐらいだそうだ。

峯本さんは、農業高校を卒業と同時に両親を助け就農した。現在、水田は自作地30枚60㍎と小作地5枚40㍎の合計1㍎を歩行型畦塗機・小型トラクター（15馬力）、乗用4条植田植機、2条刈コンバインを用いて耕作している。海老谷ではほとんどの専業農家が小型でも40〜50万円はする畦塗機を所有しているそうだ。

果樹は、標高2000㍎以上の水利





集落は戸数31戸、そのうち非農家が5戸、残りの10戸が専業農家、16戸が兼業農家である。中山間地域等直接支払の対象面積が14%、水田から転作した果樹園が15%、水田の耕作放棄地が25%ほどというから、かつては50%以上の水田があったことになる。専業農家は平均水田60aと果樹園1a以上を耕作しているという。棚田オーナー制は、直接支払を受ける条件の一つとして都市住民との交流があげられていることから、2003年に導入され、会費3万円、保証玄米40kg、田植え・稲刈り・脱穀の農業体験をメニューにして実施されている。2009年には29組の組数で、体験日には集落から20名以上が参加し盛り上がったが、今年は組数が7組、田植えの時集落からの参加者が13名ほどで、すこし淋しかったと仰る。

の便が悪い傾斜地を利用したミカン畑1畝、そのうちの10aは水田からの転作、それとカキ畑80aを所有。ミカンは温州ミカン、大手スーパーとの契約栽培で、10月下旬から12月下旬にかけて収穫され、自宅の簡易低温施設に貯蔵、11月初旬〜2月下旬に出荷される。

カキは父親の代まで40aの畑で富有力キが栽培されていた。しかし、稔さんが23歳で経営を担うようになった時、転作田40aを利用して、カキ部会で知った刃根早生とよばれる品種の渋力キ、平核無力キを導入した。この決断を父親に相談せずに行ったので、当初怒ら

## 休む間もなく作業 しっかりと棚田を守る

翌日、駅前から一人で登山口行きのバスに乗り、阪井のバス停で下車、海老谷集落の最も高いところにある峯本さんの家まで歩いてみ

れたが、平核無力キは病虫害に強く、栽培が容易で、値段のうえでも富有力キにくらべ遜色がなかった。たので納得してもらい、既存の富有力キも少しずつ平核無力キに転換、現在ではすべて平核無力キの畑になっている。これらのほか、一昨年には転作田10aを利用してシウウガの栽培も始めたそうだ。

## 海老谷の棚田へのアクセス



【公共交通】JR紀勢本線海南駅下車、大十バス「登山口行」で阪井バス停下車、徒歩1時間以上。

【自動車】海南駅の南を東西に走る国道370号を東進、阪井の交差点を右折して県道169号に入る。木津の交差点を右折、山に向かって国道424号を南下する。

た。距離およそ5km、標高差210mの道は年寄りにはかなりきつい。集落に入ると道は一段と険しく、傾斜5分の1、まとまった平坦地がなく、集落が散在することになったのである。

集落を半分以上上ったところで、畑仕事をしていた谷口明子さんに声をかけられた。阪井のバス停から歩いてきたといったら、びっくりされた。谷口さんは義父母と3人で水田30aとミカン畑60aを守ってきた。しかし、義父母が高齢になり、20年ほど前に水田はサンシヨ

畑に転換、ミカン畑は放棄し、現在は自家菜園で野菜を作る程度という。海老谷の兼業農家の多くが谷口さんの家と似たような状況にあるのではないかと思った。

峯本さんの家に辿り着いてみると、本人は近くの2aほどの棚田で黙々とトラクターを動かして代掻きをしていた。ミカン畑の夏草刈りの合間の作業、後に田植えも控えているので休む暇もない。このように、海老谷の専業農家は米作を三本柱の一つとして位置づけ、しっかりと棚田を守っているのである。

## 会員の声

### 大山千枚田の 棚田保全活動に参加して

千葉県柏市 小川 和良



自分が2007年に棚田ネットワークに入会して、早5年がたちました。入会の動機は農作業と田舎暮らしに興味を持ったこと、これに先だって千葉県鴨川市の大山千枚田で棚田トラストを始めてから、そこで棚田ネットワークの機関誌を見て他の棚田地域を取り上げているのを見て、どういった集まりなのだろうといった興味から、インターネットを通じて探し当てたのです。これが確か2007年の夏か初夏の時期だったと思います。その後現在まで場所的にはそれほど多くはありませんが、様々な棚田ネットワークの活動に参加してきました。新潟の池谷での田植えに1回、佐渡島へは4回参加させていただきました。他にも茂木の岩の作棚田とか西伊豆松崎町ではじまった石部棚田など、行きたいけどなかなか都合が合わず参加できていませんが、いずれは都合をつけて訪れたいと思っています。

主な活動のフィールドは大山千枚田です。ここは田植えと稲刈りの様子が毎年各新聞の千葉版にも載っていましたし、いずれはここで農作業をしてみたいと思っていました。しかし申し込み時期や方法もわからないうえ、一人で参加するには厳しいかなと思っていたところ、インターネットで大勢の共同作業で一人での参加も可能ということで、早速申し込みをし



2012年佐渡ツアーにて

した。当然最初の1年間は何か何だかよくわからないまま終わったというのが正直なところです。それ以降5回目の稲刈りも無事に終わり、農作業の大変さ、地元の人たちの苦労が氷山の一角ではあるがようやくわかってきたかなと思うこの頃です。いまではさらに活動を広げ、大豆畑トラストで豆腐や味噌造りをしたり、酒米トラストで地酒造りをしたりなど、年に少なくとも7〜8回は訪れていると思います。

この保存会がNPO法人になったのは周知のことですし、その特集は「棚田に吹く風3月号」にも載っていますので、そちらも併せて参照していただけたらと思います。しかしそのような一見順調そうに見えてもマンネリ化は避けられず、確かに以前に比べると参加者数はやや減少傾向にあるようです。地元の人たちもそれを危機的に感じ取っているようで、それをどうするかが大きな課題だと言っていました。その課題解決の一つに今年は収穫祭と棚田の明かりを、10月27日に同時開催することが決まりました。

## 会員レポート

### 姨捨棚田の弁財天祭

埼玉県深谷市 岡田 洋民

姨捨棚田は棚田百選の中でも知名度が高く、田毎の月や棚田オーナー制度の運営でも高く評価されています。この棚田の水をまかなう更級川の水源に弁財天が祀られており、毎年9月6日に弁財天祭が執り行なわれていることを知り、行ってきました。

祭礼は午後2時に姨捨棚田の南方2キロの山あいにある灌漑用溜池の大池と中池の間に造られた大堤に参集することから始まります。そして祭礼の実行委員による説明や千曲市西部土地改良区理事長の挨拶を経て、提灯に火を灯し弁財天へと向かいます。約5分で金網の柵で囲われた弁財天に到着しました。社(やしろ)と祭壇は堅牢な石造りで、その周りは杉の大木で覆われています。この日は祭礼とあつて社や何本かの杉の木に御幣が飾られていました。

弁財天は財を司る七福神の一員ですが、ここに祀られている弁財天は、苔むした社や樹齢何百年の杉の大木、そしてすぐ傍らの湧水等でもしだす幽玄な空間に鎮座しており、弁財天の化身とも言われる蛇や龍が驕めいている気さえずる、まさに水神様であることを実感しました。

祭礼の儀式は社の祭壇に提灯を並べ御神酒と塩を供え、理事長、副理事長の先導による二礼二拍手一礼、そのあと社の周りを御神酒と塩で清めるといったごく簡単な所作だけでした。以前は巫女の舞いなどもあり、また、祭礼後は地域の多くの人が直会で語らい親睦を深めたそうです。いつの頃からか、それらの伝統的風習もなくなり寂しい限りであります。水神様としての弁財天への祭礼や祈りに託す水への願いは、これから永く受け継がれていくことでしょう。



## 会員のひろば



## 会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想や質問でもOK!  
(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 千一六〇〇〇二三 東京都新宿区西新宿七一一八一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



# 棚田に思う



会員さんから寄せられた棚田の雑記。「棚田に思うこと」を語ってもらいます。

「棚田」という言葉は「段々畑」とセットで小学校の社会科に出てきました。社会人になってからは「棚田さん」というお名前の方に出会ったことがあります。棚田ネットワークに入会して「千枚田」という美しい日本語も知りました。

東南アジアを中心に、遠くは中東、インド洋にも見られるという、階段状の水田。翻訳会社に勤めているので棚田を表す各国語にちよつと興味をわき、調べてみました。

英語の「ライス・テラス (rice terraces)」は「テラス状の田んぼ」の意味ですからわかりやすい言い方だと思えます。この名前のカフエが千葉県にあって、棚田ではありませんが、太陽が降り注ぎ合鴨が泳ぎまわる水田の中にあります。フランス語、ドイツ語、ロシア語や韓国語も似た言い回しのようにです。スペイン語だとテラスがバルコニー (balcon) となって手すりこそないものの高さを感じさせます。

棚田の御家元中国では「梯田」の語が棚田にも段々畑にも使われるそうです。梯子と同じ字ですので「耕して天に至る」という棚田をとっても上手く表現していると思います。

日本語に戻ると「棚田」という言い方は、単に階段状というだけではない奥深いものがあります。棚の田んぼで思い出したのが、「うぐいすの里」「山の一軒家」などと呼ばれている日本の昔ばなしでした。道に迷った村人が美しい娘が住む一軒家にたどりつきます。泊めてもらえらることになったものの、見てはいけなと言われた筆筒の引き出しを開けてしまい……というストーリー。筆筒の引き出しごとに青々とした水田、黄金色に実る秋の田んぼが広がり、小さな人々が汗を流しているというSFのような設定にワクワクしたものでした。山間を辿って行き、突然眼前に段々の水田が開けた時のわあっという感動は、筆筒の引き出しに田んぼを見つけた時の驚きに近いかもかもしれません。

(東京都文京区 矢部 優子)



## 編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



©2012「人生、いろどり」製作委員会

2012年  
日本、112分  
監督：御法川修  
企画：アミューズ  
特別協力：  
徳島県上勝町

シネスイッチ銀座ほか全国大ヒット公開中。  
上映情報は公式サイトをご覧ください。  
⇒<http://www.irodori-movie.jp/>

### 人生、いろどり

徳島県の山間に位置し、四国で最も人口の少ない町・上勝町。高齢化と過疎化が進む同地が、料理を彩る「つまもの」と呼ばれる葉っぱビジネスで年商2億円以上を稼ぎ出し、結果、人口増加にまでつながった。そんな驚きの実話をベースに、葉っぱを通して再び生きがいを見つけていく70〜80代の女性たちの姿を描く感動のヒューマンドラマ。

舞台となる徳島県上勝町は、四国でも有数の棚田地域でもある。月の見える「宇宙の棚田」を始めとして美しい棚田の里山風景が、映画を彩っている。



### 天地明察

2012年は「金環日食」、「金星の太陽面通過」、「金星食」と、大変珍しい三大天文現象が見られる天文イヤー。そんな年に相応しい映画の紹介。

舞台は江戸時代、暦は、季節とともに暮らす多くの日本人の生活の基盤である以上に、宗教、政治、経済にまで影響を及ぼし、暦を司る者が国を治めるというほど重要な意味を持つ存在だった。そんな暦の間違いを正し、新たな暦を作るといふ、国を揺るがす一大計画を任された男・安井算哲が、幾度もの失敗、挫折に躓きながらも、様々な人々と出会い、支えられ、導かれながら、諦めずひたむきに夢を追いつける姿を描いた超大作。

2012年、日本、141分  
監督：滝田洋二郎 / 配給：松竹株式会社  
9月15日(土)より大ヒット公開中。  
上映情報は公式サイトをご覧ください。  
⇒<http://www.tenchi-meisatsu.jp/>



©2012「天地明察」製作委員会



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

少しでもお役に立てれば！  
つづら棚田救援募金

2012年10月1日 報告 上久保 郁夫

本誌9月号で皆様にお知らせしましたように今年7月九州北部地方を襲った豪雨は各地に大きな被害をもたらしました。なかでも百選の棚田で当ネットワークと関わりが深いつづら棚田も一部が崩落し、何軒かの農家も巻き添えに遭っています。いま残された畦には彼岸花が咲き乱れ、被害の状況も交えテレビ等で報道されています。このような状況下、皆様にお願ひした救援募金は短期間にもかかわらず30数名の方から20数万円の募金が寄せられました。これは棚田地域を皆で支えていこうとする助け合い精神の現れでとても大切なことだと感じました。

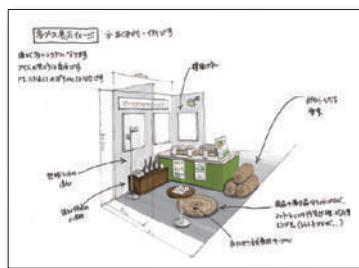
(本誌「かわら版」に関連記事掲載)



東京ビックサイト エコプロダクツ2012  
今年は攻めの出展!

報告 玉崎 修平

12月13日(木)~15日(土)、東京ビックサイトで開催されるエコプロダクツ2012に出展します。今年は「都市住民に直接情報を発信する」を目的として、棚田ネットワークと全国の5つの棚田保全団体が共同出展予定。テーマは「棚田から考える、食と農」。時代を反映し、来場予想が18.5万人を超える展示会で“棚田の良さ”をどこまで伝えられるか? 熱い話し合いがアルコール抜きで行われています(笑)。今年の棚田は攻めの姿勢です!



ブースのイメージも固まってきました

今年から事務局にて広報として活動させて頂くことになりました、ウッチーです。18歳の時に中国は雲南省の元陽で出会った棚田の美しさに一目惚れしてからというもの棚田の虜となり、旅先に棚田があれば立ち寄るということをしつくりと繰り返して早7年。事務局入局後は実際に草刈りや棚田保全活動、稲刈りなど現地イベントにも参加させて頂き、佐渡の岩首棚田、西伊豆の石部棚田、上田の稲倉棚田そして個人的にも淡路島の長澤棚田や、兵庫の乙大木谷棚田、島根の大井谷棚田など僅か半年未満の間に相当数の棚田を訪れました。既に25年間の人生で一番の棚田イヤーであることは間違いないです。今後も日本全国各地の棚田を訪れて、より多くを学び体験しながら、各地域の保全活動に未熟ながらも参加していきたいと思っています。

ところで先日、丸3年使ったPDAを最新機種に変えたところ、凡ミスで800件以上の連絡先がすべて抹消されるという恐ろしい事態に陥りました。さらに日記や家計簿といった個人データもすべて吹き飛び、まるで人生そのものをリセットしたかのようで、茫然自失、しばらくは何も手に付きませんでした。趣味の写真に関しては、やはり過去に数万枚というデータが飛んで以来、外付けHDDに保存し、DVD・Rに焼き、尚且つ紙媒体にも印刷しておくという何重ものバックアップ体制を取っていますが、モバイルデータに関してもあまりに無頓着すぎたことに、今更反省…。考えてみれば、日々使用し情報が書き換えられていく携帯電話こそ、頻繁にバックアップを取っておくべきだったのです。人は失って初めて気付くものです。皆様も私のようになって嘆く前に、日頃から何事もバックアップを心がけることをお勧めします…。

スタッフの  
つ・ぶ・や・き  
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局  
ウッチー



## 栃木県茂木町

### 茂木プロジェクト

#### 岩ノ作棚田の稲刈り 終了しました



稲刈りをした田んぼの前で



忍術で眠らされたトンボ

米作り体験田の稲刈りは、9月14日(土)に無事終了しました。当日は心配された雨にも遭わず、健やかに稔った稲株を全員で刈り取りました。アキアカネの打空産卵を観察したり、トンボたちを眠らせる忍術も学びました。

いつも陰で支えてくださっている小深集落の方々、今年もお世話になりました。

当日、参加者の皆さんに宿題として持ち帰って頂いた1本植え、2本植え、3本植えの、一株穂数や一穂粒数の計測結果も徐々に届いています。宿題を終えた人には、岩の作棚田の美味しい新米1kgがプレゼントされます。まだ終えていない人は頑張ってください。

(安井 一臣)

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

#### 棚田ビオトープの稲刈り



田植えから4ヵ月。9月28日(金)10時から15時まで稲刈りと畦畔の草刈りをしました。参加者は岐阜県立国際園芸アカデミーの学生と私の2名。棚田ビオトープは上・中・下段の3枚に分かれますが、稲が植えてあるのは上・中段で、上段はまだ穂が青いので今回は稲刈りをしないで残しておきました。つまり稲刈りしたのは大きな石が田の真ん中にある中段の棚田です。手刈りでザクザクと開始したはよいものの、稲束をつくるのに思ったより時間がかかり、昼休憩。坂折棚田近くの不動の滝で昼食を取りました。午後はヒガンバナが咲いているので注意しながら刈払機で畦畔の草刈りをしました。

(相田 明)

## 静岡県松崎町

### 昔ながらの米づくりプロジェクト

#### 大きくたくさん育ちました！



ハサ掛けを終えてみんなでバチリ！



役目を終えた養口

3月に復田した8枚の田んぼが、ついに収穫期をむかえました。10月6日、7日の両日に14名の参加者で稲刈りとハサ掛け作業を行いました。復田初年度は土の栄養が豊富らしく、他の田んぼとは見るからに違い稲の育ちもよく、株が太い！ 収穫量も多くて、ハサをいくら作っても足りないくらいでした。

藁で作った水の落とし口「養口」も無事一年間の役割を終えました。ここで出来た新米で11月11日に石部棚田で試食会を行います。前日10日は、棚田で音楽祭も開催されます。一年を振り返りながら、美味しい新米を食べて、来年への英気を養いましょう！

(高桑 智雄)

棚田ネットワークが

# 旧暦の暦つくりました

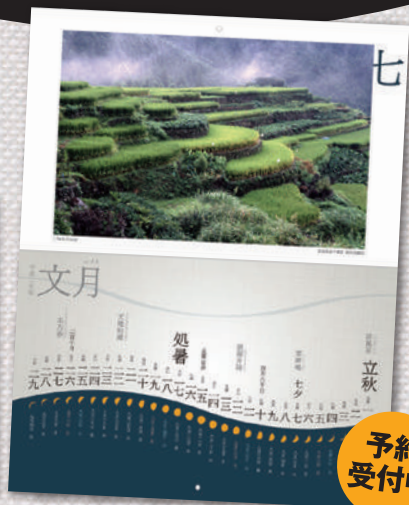
平成二十五年  
旧暦  
棚田  
ごよみ

明治5年まで日本で使われていた旧暦は、月の満ち欠けを1ヶ月のサイクルとした太陰太陽暦。『棚田ごよみ』は、来年一月一日が、新暦2月10日からじまる本当の旧暦カレンダーです。

※月の満ち欠けイラストが入っています  
※新暦の日付も小さく書いてあります

「棚田ごよみ」で、  
より自然を意識した、  
季節感のある暮らしを  
取り戻してみませんか？

平成25年版  
『旧暦棚田ごよみ』  
(写真:青柳健二)  
¥1,000



予約  
受付中

●ご購入(ご予約)はこちら ⇒ 棚田ネットワークグッズ販売サイト <http://www.tanada.or.jp/tanadanetwork/goods/>  
棚田ネットワーク事務局 03-5386-4001

棚田の  
応援団

## わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に  
なると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)  
一般会員 3,000円  
学生会員 2,000円

## 法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

10月初めのある日。出勤してきたスタッフが事務所のペランダを見て「わあ!稲のカーテンが!」と歓声を上げました。今、そこには太い稲束が十数束、ぶら下がっています。12月に行われる「エコプロダクツ展」の装飾用に、石部の棚田から持ち帰ったものです。戸を開けると部屋の中に稲の香りが流れ込み、大都会のど真ん中であることを一瞬忘れさせてくれます。今年には棚田フェスティバルを開催しないことになりましたが、その分エコプロに力を注ごうと、あれこれ計画。そしてそして、同封チラシにある旧暦カレンダーがエコプロデビューします。12月13日から三日間、東京ビッグサイト。ぜひ見に来てください!

編集部から

## ホームページの姿を見て!

棚田ネットグッズ販売ページにカートシステムが搭載され便利になりました!



[www.tanada.or.jp/tanadanetwork/goods/](http://www.tanada.or.jp/tanadanetwork/goods/)

棚田に吹く風

2012年11月号 Vol.85

発行



NPO法人  
棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel / Fax 03-5386-4001  
e-mail: [info@tanada.or.jp](mailto:info@tanada.or.jp) URL: [www.tanada.or.jp](http://www.tanada.or.jp)  
郵便振替口座: 00100-7-151565

【今月の表紙】長野県上田市・稲倉棚田の案山子まつりの作品。